

町政座談会（田所・高原地区）

日 時 令和6年2月18日（火）
18：30～20：00
場 所 田所公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町政座談会を開催しましたところ、こうやってたくさん集まっていただきまして、大変ありがとうございます。町長に就任しまして、ぜひこういう座談会は続けていきたい、毎年やりたいということで予定を組んでいただきましたが、1月半ばから2月半ばの一番寒い時期しか予定が組めなくて、田所地区と高原地区につきましては、天候の加減でこうやってずらさせていただきました。

併せて、本来はそれぞれで開催すべきところを、大変申し訳ありませんが、一か所でさせていただきました。改めて、町政座談会をしまして、まとめてやっておいて、こういうことを言うのは本当に失礼なんですけど、各公民館単位でやって何が良かったかという、同じテーマであっても、それぞれの公民館単位なり、地区で発言の内容がみんな違うんです。一か所で集まってそれぞれの人の生き立ちとか、住んでいるところがわからないと、たまたまそう言われるだけって思うんだけど、やっぱり公民館単位で細かく歩かせていただくことは非常に大切ななと思いました。すみません、まとめとやっておいて冒頭に言う話ではないんですが、今後もこういうことはしっかり続けていきたいと思っております。

資料としては、今後取り組んでいきたいことと書いていますが、それはそれで置いておいてください。若干ふれながら説明はしますが、こういう座談会がはじまって一か月経ちまして、この間に来年度予算を、今、準備しています。明日が議会運営委員会なので、明日にはきちんと出さないといけないので、ほぼ決まっています。査定をしてみています、最終段階は明日ということなんですが、どこまでこういう場でしゃべっていいのかなというのと、座談会でのやり取りの中でかなり好きなことをしゃべらせていただいております。町長が言ったから決まりだとかいうわけじゃなくて、私自身もやり取りの中で、何が正しいのか。思いはあるんだけどということと、皆さんにも言っていただくと、今日、副町長も教育長も総務課長も、職員さんも何人かおられると、問題が共有できるということと、中には質問でこんなこと言っているのかなという方もおられるんですが、それぞれの立場だと思います。

議員をさせていただいておって立場がこちらに替わりますと、意外と見えるものが見えなくなってくる。皆さんにとって疑問だったり不思議なことがこちらにくると、そうじゃなくなってくるので、思いはしっかり伝えていただければ、ありがたいと思っています。

来年度予算の話をしていろいろしないといけないんですが、総額で言うと130億円代なので、かなり下がりました。ただ、お金が全然足りないの、4億5千万円くらい貯金を崩します。過去最高だと思います。じゃあ、総額が下げられたのに何でこれだけお金が足りないのかという部分が大事ななだと思います。

一つは、やっぱり町の財政全体がなかなか見えない、見えないのは一つ大きいのは石見中学校、邑智病院、道の駅をやっています。それが悪いんじゃない、今年度中に終わらないといけないのが、来年度も工期が延びたり、事業が延びてくると、

年度年度の町としての区切りがきちんとつけられない。今年度予算のその他の繰り越しもたくさんあります。町は一年一年の区切りなので、その区切りがきちんとできていない、難しくなっていることが財政全体を見通せないとか、仕事の区切りができない。1月の仕事ははじめのときにも職員の方にも言いましたし、自分自身に対してもですが、行政は年度が区切りなので、1月から3月はしっかりその年度の仕事を、来年度の準備も併せてしましょう。一番大変だけど頑張りましょうといさつをしました。まずそこができないといけないんだらうなと思っています。

そういう意味で、今、大変ではなりますが、非常に短い中で、来年度予算の準備をしています。財政が大変だという話をしますと、どこでもそうなんです、捉え方として、お金がないなら何もしてもらえないのか、やり繰りだけで、今の投資、将来の投資、地域に対してきちんと投資ができるかという話をされます。やり繰りをして財源を見つけて、きちんと投資をしていくのが大事だと思っています。

4億5千万円くらいの赤字がありますが、一部不確定要素がたくさんあります。不確定な要素があるというのは言い方が悪いんですが、新たな取り組みでは事務組合でデータ処理をするのに、非常に国のシステムに入るのに見積もりがはっきりしないので、最大で取っているとか。

あとは、フィンランドとの交流を矢上高校とか石見養護学校とか町外の高校に行かれる方もそうですが、高校生や中学生の交流を復活したいと思っています。ただ、今のご時世はお金がかかるので、毎年やるのかという話をしたときに、どうしても大人が何人か着いていくとコストだけがかかるので、2年に一回にして、その代わり高校生をたくさん連れていく方法を取りませんかと提案したり。やはり、1年ごとより、2年に一回なので、来年度はちょっと負担が増えると。そういう長い目で見れば、効率的だけど、来年度は負担が増えるというのも若干入っています。

そういう意味で、しっかりした投資をしながら、できた部分もあると思います。具体的に少し述べてもいいかなと思いますが、教育関係の人的配置はかなりしっかり予算をつけたつもりです。サポートが必要なお子さん、図書館司書の方など継続する部分はしっかりさせてもらおうと思います。顔ぶれを見て言うわけじゃないですが、老人クラブであるとか一人暮らしの世帯の集まりに対しても、現状維持で、若干組み換えをして一部減らして一部付け替えなどしていますが、総額ではそういう方に対してもしっかりしているつもりです。

一番できなかったのは、農業振興をしますと言いながら、農業分野はかなり予算を削減しました。財源がなかったというのも一つですが、いろいろな要望がある中で、本当に何をすれば一番いいのかというのをこちらから提案するのがいいのか、まず皆さんに考えてもらう。農政会議やそれぞれの団体からご意見いただいています。農業委員会からもいただいています。皆さんで一回考えてもらう場があって、そこに対して予算付けして皆でやっていくという仕組みがないといけないかなと思ったので、再生協議会とかそういう団体に対して皆で考えましょうと予算付けをしました。

商工業の振興についても商工会の予算をしっかりと維持しながら、商工会の中で人手不足をどうしたらいいか。こちらからやるよりも自分たちから課題を見つけて動いていただくという方が長い目で見るといいかなというところがありまして、今までとは若干、意識を変えながら予算編成をしたつもりです。

そういう中で、一番関心が高かった部分を少し話をさせていただくと、今後取り組んでいくとこに書いていますが、小中学校の統廃合については、来年度から検討

したいと思っています。具体的には、教育委員会では、学校教育として邑南町の子どもたちをどのように育てていくのか、今後の教育はどうあるべきかということを教育委員会で考えてくださいと言っています。

当然、これまでもあちこちで話をしていますと、それぞれの学校の生い立ちであるとか、地域とのつながりであるとか、違う面での皆さんの要望や思いが学校に対してあります。そういうことで、地域みらい課には、地域との中で学校の在り方、地域の人たちとどういう関係性をもっていくのか、全く違う面で考えてくださいと言っています。

私は私でということで、あまり深入りするといけないと思っているんですが、今ならその議論ができるというの、若干余裕があるから。その余裕というのは、今の小学生は1学年70人です。保育所になると、1学年50人になります。今、生まれているお子さんは、1年間に40人いるかいなにかです。あまりこの話だけすると、もう近い将来、1学年40人なら、中学校1校、小学校1校でいいでしょという議論になってしまうんだけど。

今、現実には70人で次の世代が50人前後というのは、それを念頭に統廃合なり、学校の在り方に選択肢がたくさんあると思います。その選択肢を維持するために、町として定住対策をしていくということも大事だと思います。この地域は矢上高校もありますし、県立の養護学校もあります。周辺には新庄高校もありますし、島根中央に行かれる方もある。そういう選択肢の中で、教育をどうしていくかというのは、非常に大事ななことかと思っています。

併せて、地域みらい課も含めまして、少しきちんと成果を出したいと思うのは、人手不足の解消として、矢上高校や石見養護学校であるとか、地元出身者がこの町の次に担い手になる、支えてもらえる仕組み。例えば、矢上高校に多大なお金を町も出して応援しています。県外からもたくさん来ていますというのを今までやっていましたけど、その子たちがこの地域の担い手になっているか。お金だけ出して学校の定員を満たして、それでよしでいいのかということがあるところがあって、やはりこの邑南町で働く、支える、暮らすということをもっと積極的に呼びかけたり。

今、企業も含めてどこも人手不足です。みんな困り込みです。うちの会社に来たら、こういう人生が送れますという提案をしています。そうすると邑南町も、この町で働けばとか、高校を出てそのままこの町で暮らしたり働いても、こういう人生が送れますよと。町はこういうサポートをしますよ。学びの環境はこういうものがありますよ。キャリアアップしながら、この町で生活できるというのをもっと示してあげないといけないかなと思います。

こういう話をしたときに、私たちやこの地域に住んでいる人たちが、今の若い高校生や小中学生に対してこの町で暮らしてほしい、支えてほしいというのをすごく積極的に言うのは喜びなのか、プレッシャーなのかという思いがあります。たまたま市木で、お父さんが高校生の息子さんを連れて来られたところで、そういう話をしたら、僕は嬉しいです。周りの子はそうじゃない子もいるけどという話もありました。やり取りをしながら、期待されるのは喜びの方もいるし、この町はやめたほうがいいよ。こんな町はと言うのはあまり良くないことだと思います。

自分たちがしっかりと誇りを持ってしっかりPRしながら、それが定住につながって人手不足の解消になって、この地域を支える人が育つということを、しっかりと町としても取り組んでいきたい。大きな課題としてやっていきたいと思っています。なるべく皆さんと意見交換をした方がいいと思いますので、来年度の予算

や、今後の課題を書いています。最後にその他で書いてありますが、ちょっと冒頭にもふれましたが、極力こういう会を開きたいと思っています。私自身にとっても、皆さんの声を聞ける場で地に足をつけて、行政が運営できる大事な場所だと思っています。

併せて、いろんな面で人手不足で、いろいろな会議があれば、いろんな人に出てきていただけます。都合がつくときに、初めて出ましたという方もたまにおられます。そうすると、町としてもいろいろお願いするときに、担い手になっていただきたいときの声かけとして、やはり人材の発掘の一つとしても、こういう会も大事かなと思っています。町政座談会として、産業別とか、町が積極的にくるのか、若しくは、今ある既存の会議に私たちが出かけていくかという方法もありますが、極力、続けていきたいことだと思っています。

もう一つは、職員の副業と書いています。今まで、公務員の方が副業をするのはいけないことだと思いましたが、ルールに基づいてやっていいことと、やってはいけないことがあって、許可を受ければ、副業はやってもいいです。副業で金儲けというとおかしいんですけど、地域でいろいろ困っていて担い手がいない。地域の支え手がいないということであれば、お金をもらうことであっても役場職員が手助けであれば、やっていいと思いますし、ボランティアでも地域の役は当然やるべきだと思います。それはそのまま、地域に関心を持つとか、役場の中で他の人の仕事に興味をもつ。

今、役場に入らせていただいて一番の悩みは、いい意味で縦割りで、どうしても地域の課題は複合的要因があるんだけど、もう少しお互いのことで協力し合うといいのになと。例えば、自分の仕事が福祉であっても、それをやることによって農業振興になるとか、どこかでつなげてもらって、地域の担い手の不足だとか、支え手につなげてほしいという思いがあって、その一歩として、副業というわけじゃないですが、お互いの仕事に関心を持っていただければ一番いいかなと思っています。

今日も課長会議を開いて話をしましたが、そのためには今の役場の状態は、非常に残業も多い。残業が多いと言うと、それが悪く聞こえちゃうんだけど、皆さんのために一生懸命働いてもらっているけど、働き過ぎの部分があります。少し町のトップとして、そういう環境をまず改善する。そこで生まれた余裕を皆さんのためとか、自分のために生かしていただければいいかなと思っています。

財政もそうですけど、職員も努力して財源を見つけ出す。一般企業であれば、それが利益で、その利益は株主や会社の職員の給料になります。役場は職員の給料にできないので、見つけ出した財源を施策にしてもらって、職員は住民として、町民としてその利益を受ける、そういう仕組みができれば頑張りようがあるかなと思います。やる気が出て、職場がいい職場になることは、そのまま皆さんためになるとしています。そういうことも含めまして、取り組んでいきたいと思っています。

簡単に話をしましたが、それぞれ思いを持ってきていただいていると思いますので、質問のやり取りの中で足りない部分をお話させていただければと思います。私からは以上で、次に教育長から話をさせてください。ありがとうございました。

2. 教育長あいさつ

改めまして、こんばんは、教育委員会の大橋でございます。よろしくお願いいたします。日頃より、瑞穂小学校、高原小学校、瑞穂中学校、各公民館にご支援ご協

力をいただいておりますことを、この場をお借りして、まずもってお礼を申し上げます。ありがとうございます。

私の方からは一点、お手元に全面カラー刷りのものがあります。これを上にしていただいて少し説明をさせていただきたいと思います。これはコミュニティスクールという一つの制度を今後、邑南町に導入していくための説明資料です。これは目標として令和8年度に導入を目指して、来年度の一年間しっかりと地域の皆さまと協議させていただきながら、各地域に合った特色あるものをつくり上げていきたいというスケジュールで考えております。

では、コミュニティスクールとは、一体どういうものかということですが、この前面カラー刷りの左中程あたりをご覧ください。四角囲いで、コミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校と示されております。

では、この協議会とは一体どういうものかというところです。現在は、こういった制度では、学校の評価員、第三者の評価員として、各学校に地域の方に協力をいただいて、学校の一年間のいろいろな取り組みに評価をしていただいております。このコミュニティスクールの一番は、その右側をご覧ください。四角囲みで3つあります、その一番上です。今までは、基本は評価を中心に協力いただいていたものが、この協議会を導入することによって、学校の運営方針をまず承認していただく。地域の皆さまに承認していただくという新しい動きを導入して参ります。このことによりまして、子どもを真ん中に据えて、学校の思い、もちろん校長先生の思いもあるでしょうし、あるいは地域の思いが対等の関係になっている。協働によって、子どもたちを育てていくという一つの大きな仕組みが出来上がるのではないかと考えております。今までは、学校からの依頼であったり、行政であったり、各地域に協力をいただいております。それは、運営方針自体を承認していくわけですので、お互いにいい意味での責任も出てくるのかなと考えております。

このベースになるのは、以前に少し時間が空きましたが、地域学校であったり、300人委員会であったり、1000人委員会であったりと、コロナの前に実施してから、しばらく期間が空きましたが、そういう中で地域の皆さまが学校に対しての思い、子どもに対しての思い、しっかりとした土壌のある地域にこそ、明確な制度としてこのコミュニティスクールを取り入れていきたいと考えているところでございます。

その右のページの一番下をご覧ください。目指す効果というところです。あくまでも子どもの像と言いますか、目指したいものを学校と共有するということで、いろんな場面でブレることなく、公民館活動、地域活動、自治会活動等々を学校と共に育てていけるのではないかと期待しているところでございます。

最後に、裏面をご覧ください。これは想定しておりますけれども、この協議会を導入した際は、このような良い面が出てくるのではないかと考えております。まず資格囲みの上の方です。これは学校から見たメリットです。地域と共にある学校づくりを学校が行っていったときに、このようなメリットがあると。

また、下の四角囲みにつきましては、これは先ほども町長が申しましたけれども、今度は学校を核とした地域づくりという視点で考えたときには、このようなメリットがあるのではないかと考えているところでございます。

邑南町としては、このコミュニティスクールは、基本は小学校単位でつくられるのが全国的に多いようですが、邑南町は9年間で意識したいと考えております。小学校、中学校の9年間、義務教育を卒業するときに、このような力をつけてもらい

たいという思いを、学校と地域が共有していくという体制でいくと、このコミュニティスクールというのは中学校区につくっていきたいと思っております。このことにつきましては、先ほども申しましたように、今後、対話を通して熟議を重ねながら各地域に応じた姿をつくり上げていきたいと思っておりますので、来年度いろいろな場面を提供させていただきますので、ご意見等をいただければと思っております。私の方からは以上でございます。

3．意見交換

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、皆さまとの意見交換ということで、進めて参ります。皆さまからご意見、ご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、一回のご発言の際に、一つずつお願いしたいと思います。たくさんの皆さんからご意見を頂戴したいと思っておりますので、一回に一つずつということで。一回しか発言してはいけません、困りますというわけではございませんので、ご理解いただきたいと思います。よろしく申し上げます。それでは、どなたからでも構いませんので、よろしくお願いいたします。

- 高海自治会の〇〇といたします。4点くらい質問をしたかったんですが、まず一点。一つは、新しい地域コミュニティ、地域運営組織というものですが、既に自治会を統合された地区もありますが、高原ではまだそういった話合いもしていません。ただ、気になるのは自治会館が今あります。合併時に建ててわずか20年、まだまだ新しい施設です。今、自治会で活動しているのは、その地域に身近にある会館なので、いろいろな面で利用されているし、自治会としてもこれまでいろいろな取り組みをしていて、非常に使用頻度も上がっています。

その中で、地域運営組織、2つの自治会が一つになるような方向なんですよ。ところが、先ほど言いましたように、身近な人が気軽に来れるところ、合併すれば、今度はその場所がどこになるのか。たぶん公民館などを想定されるんでしょうが、そうすると、特に高齢者にとっては遠くなる。利用頻度が非常に難しくなるという面があります。

もし、統合したら、今の自治会館は、必要なら残します。いらないなら町が解体しますといったようなことを聞いています。必要なら、今度はそれを地域が管理していかないといけない。固定費はいりますから、その財源がない。会費を上げて運営していくしかない。そういったことがあって、考えたらデメリットしかないんです。地域運営組織、地域コミュニティは建物がなくとも、その地区の2つの自治会で1つにできることはあるかもしれませんが、それは館がなくとも運営できるのかなということになると、やはりそこに住む住民が一番利用しやすい自治会館を継続していくことが、私は一番理想だなと。

ただその管理と運営をしていく費用がなかなか捻出できない。だからといって、会費を上げるとすると莫大な会費になって負担をかけるということで、悩みもあったりするわけです。だから、必ずしも合併しなくてもいいんじゃないかという言う考えを私は持っています。他の人はどうか知りませんが。そんな話をまた具体的に進めていませんけど、地域で運営するメニューもありましたけど、今までのメニューはやっぱり身近な自治会館での活動というのは継続していく方がいいんじゃないかという気がしています。

それで、ここにも書いてありますが、自治会館の解体とか書いてありましたけど。公共施設の統廃合の中に、自治会館とか斎場とかが上げてありますので、そういったことをにらんでやっておられるのか。それぞれの地域で、必要な会館もあるということは、やっぱり継続していてももらわないといけないし、そうなる、今、町から施設の管理費など出ています。そういったものがどうなるのか、いろいろな具体的なものが出てこない、なかなか前に進めないというのが、まず1点です。

- 大屋町長 ありがとうございます。簡単に答えさせてください。地域事情があって、この度のコミュニティの再生で、地域運営組織というのは、それぞれの自治会は邑南町の中で大きさが違うので、成り立たないというのであれば、再編したらどうですかという提案であって、全てが再編してくださいというものではありません。それぞれに、自治会が使いやすかったり、今のままでよければそれでもいいし、選択肢の一つだと思ってください。

公共施設の統廃合で自治会館と書いてあります。皆さんにとって必要がないよということがあれば、壊します、何とかしますという話であって、今のままが良ければ、それで全然いいです。それに対して、統合しなければ自治会活動費も減らすというような条件は出していないので、もし役員のなり手がないとか、今のままでは維持できないんだということがあれば、再編していただければいいし。先ほど言われた公民館単位で一緒に何かするときには、一緒にするけど、あとは自治会毎でよければ、それで全然いいです。今が良ければ、今のまま維持します。

この話があちこちで出ながら、なかなか返事がきちんとできなかったのも、それぞれの地域の事情があるので、地域に合わせて相談させていただいて、今がよければ今のままで、変えたければ変える方向でと、町として積極的にじゃないということを理解してください。あえて一つにしてくださいという意味ではないということだけ思っていたいただければいいです。今のままが良ければ、今のままで頑張っていたいただければ、応援するところはしっかりさせていただきます。

- いいですか。地域運営組織を自治会館を残したままでつくった場合、地域運営組織にはマネージャーの手当が400万円くらい出るんかいね。それと、その活動の補助金が100万円か200万円出るそうなんですけど、それも自治会館を残して地域運営組織をつくったときには、全部出るということですか。
- 大屋町長 石見の自治会館がもう50年くらい経っていてどうしようということがあったので、地域運営組織をつくっていただいて、例えば、今の自治会館を活動拠点にするとかなら、それで成り立つし。公民館を使うなら、じゃあ自治会館はどうしますかと提案すると、自治会館は自治会館で使いたいと言われたときには、また相談だと思ってください。ある程度見てもらえるところがあればですが、その自治会としての活動も指定管理なので、そこで2つとも指定管理を受けて今までどおりにしたいということだったら、また相談で。そういう手もあるんだと思います。どちらも新しいのはわかっているので、敢えてそれを棒に振ることもないです。

一方で、公共施設の統廃合というところで、遊休公共施設の新たな活用策の検討と書いています。もし使わないとか、大部分を公民館で活動するけど、空いたときだけ自治会館というときに、だれが負担というときに、使い道がないとか、使わない期間が長い公共施設を町として持つのも大変なら、新たな使い道はないのかということも考えなきゃいけないと思います。いろいろな事情に対応できるよ

うに、こちらとしてもしっかり準備させていただいて、相談するなり提案させてもらえればと思っています。それぞれの事情を聞かせていただいて、対応させていただければと思います。ちょっと逃げみたいな答弁でごめんなさい。

●大賀総務課長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

○ 私は、財政の町長の話について聞きたいわけですが、ご存じのとおり私も30年この町で議会をやらせていただいて、議会を離れて4年間ということで、私はその4年間の間にここまで財政が厳しくなったのかというのが、この度の選挙で聞いたわけです。それで、この財政につきましては、今の大屋町長さんは議会でも数字に強いということで、基本的には実質公債比率というのを私たちが考えるのは毎年出てくる。その%が、今15くらい？

●白須副町長 14、13くらいです。

○ あれは、だいたい18くらいが危険で、ここまでいくようになったら、夕張みたいに総務省が財政再生みたいにするということで。これは要するに、合併して20年間で財政が厳しくなったということは、誰がいい悪いではなく、基本的には執行部と議会の中で、毎年、財政帳を見ながら公債比率を見ながらやってきて、その中でこの4年で、こんなに予算が組めないくらい悪くなったんかなという疑問が、この度、出ました。

ということは、議会をやっていた私たちにも責任があると。という中で聞きたいのが、町の財政再建という言葉が使われています、この度。財政再建というのは、基本的には、その町が自主財源でやっていけない、赤字が増えたということで、財政再建団体に総務省が認めて、今度はそれに対して、町として一番やらないといけないのは、職員の削減、そして今度は人件費を抑制していく。あとは、町の収入である自主財源、これを上げていくというようなことが、私は財政再建という言葉だと思っておりました。

ただ、それが財政再建団体になったということは、町長さんは使われていなかったんで、その言葉でこの会場にも議員さんとか、元役場の皆さんもおられるので、そういう皆さんは、いよいよ邑南町は金がなくなったかと。もうこれはやれんのかというのが、そのまま出てきたら、若い人もやはり金のない町に帰ってこいと言われても、よう帰られんというような悪い方に動いてはいけんと思ったのが、それが一点です。

その中で、24、25年前になるとと思いますが、臨時財政対策費というのが出ましたね。

●白須副町長 臨時財政対策債です。

○ 臨時財政対策債ですか。国が各地方公共団体に地方交付税を出す金がないということで、その対策債というのをつくって、各長を市長を助けましょうと。自治体は起債ですが、最終的にはプラスマイナス0で、あなたの町にあげますよというようなことで。最近、これがコロナの関係で国もどんどん金がなくなって、そういう臨時対策債というのは、当てにならないということでしょうか。

●白須副町長 あります。それで100%財政措置されます。それで、来年度は、初めてなくなりました。税収が延びて、国全体の。というような状況です。制度自体は。

○ 国の方から、それは当てにならないということ。

●大屋町長 それも含めて答えます。

○ というようなことで、一つ心配だったのは、地方がいよいよやれん時には、そ

のやり方で初めはもらいよった。リーマンショックのときくらいから、それができて、その事業が、この4年間の中でなくなって町長さんが言うように、大変厳しい再建だから、それも国から出てこなくて厳しいんかなという言い方をしよってかなというような思いで。その思い。

それで、長くなってすみませんが、20年前に合併して3町が一緒になって、合併特例債も出ましたが、後ろにおられる山本副町長さんでした。あの頃にもう町もやれんからということで、三役さんが報酬をカットされました。議会も18名がカットしました。というように、また3月議会をやられるということで、本当に厳しくてやれんということになると、そのような三役の報酬カット、そしてまた議会の皆さんも。何ヶ月かは解散するから、新しい議員さんが決めないといけないことですが。そういうような格好で、一時は合併のための甘い蜜ということで、合併したらすぐ交付税をカットされて、今度は、新たな町長さんと三役さん、議会の方が報酬をカットしたと。そこまで厳しく、今なっているのかというようなことで言いたいのは、厳しいというのは分かりました。

分かりましたが、それをあんまりどんどん言われると、町長さんというものはある程度、町民に夢を与える仕事も一つの大きな仕事だと思いますので、中身は厳しく、それはしっかりと議会と執行部で徐々に下げいく。しかしながら、町民には補助金を出さなくてもいいので、夢をしゃべっていただいてというようなことで。私は20年間の今までの町政と今後の町政は、大屋町長が選ばれた。これは町民が選んだ以上は、大屋町長のカラーでやっていくのに、あまりまじめにまじめにではなく、町長は夢を与えていくということをお願いしたいということで、今のことで答えられるようにまたお願いします。

- 大屋町長 財政が厳しいですという話を、皆さんにしていかなきゃいけないということで、再建という言葉も使ったんです。他の地区でも同じ話がありました。借金を抱えて大変で夢がないから、この町に若い人が来なくなるよと言われてました。そういう捉え方があったんだと、非常に申し訳ないなという思いと、あえて再建という言葉を使ったのは、職員もそうです、私たちもそうです、町民の皆さんにも意識を変えていただかなきゃいけない時期がきた。

合併して1万3千人近くいた人が、今9,500人で、近いうちに8千人前後になるというところで、どうしても施設の統廃合をするとか。今あるサービスは維持したいですとか、学校にしてもきちんと残していかないといけないけど、若干は不便さが出てくるということも理解してもらわないといけない。

役場の中でいうと、ほぼほぼ、ウルトラCは使い果たしています。先ほど、〇〇さんに言ってもらったとおり、いろいろな数値を見ると、うちの町は決して悪いことはないです。悪くないように、例えば道の駅の償還は、30年にすることによって、1年辺りの金額を下げている。今後は若い人たち、次の世代が何かしたいと思ったときに、逃げ道は一切ないということがあって、あえて財政再建というのを使わせてもらっています。国からの支援がなくなったわけじゃないです。

臨時財政特例債という話があったんですが、それは交付税の一部なので、総額の中で現金としてもらうか、借金として国に返していくか、ちょっとややこしい話ですみません。ただ、国からのお金も人口が減ってくる分だけは、しっかりと減っていきます。出る方は変わらないです。

意識改革をしてほしい。例えば、職員の方もいるんですけど、邑南町は世帯数は大きく減っていないです。一人暮らしの人が増えていて、住民サービスのコス

トはどんどん上がっているけど、それをどうするのかというアイディアを出してもらわないといけない。それで、やり繰りを何とかする中で、しっかり皆さんに投資をしたいですということで、今年度予算についても、財源を子どもたちのためであるとか、地域のためということで必要なことには、しっかり投資をしています。それをアピールしながらやっていきたいですし、ふるさと納税というのも大きな財源なので、もう少し頑張らないといけないし、頑張るためには、町の魅力などの伝え方も努力していかなければいけないと思います。

あとは、本当に厳しいなら、三役なり議会なり、職員の給料を下げるべきだという議論もありますし、そういう指摘も受けたことがあります。三役が報酬を下げるのは、どちらかというとパフォーマンスに近いので、議会もそうだと思いますし、今の時代に理解されにくいところの一つは、議員の報酬も議会の時上げました。職員の給料も要求どおりに全部上げています。今の時代、人件費は削減しちゃいけない。しっかり掛けないと働いてもらえないし、地域の所得を上げていくためにも必要だと思っています。

ただ、その中で、人件費総額は増えていくので、ちゃんと仕事を見直して、総額は下げていかなければいけないと思っています。ちょっと、財政再建のイメージが悪く捉えられてしまうということは、私の責任だし、議会でも宮田議員から指摘もありました。上手に伝わっていないところもあると思いますが、長い目で見たときに、しっかりとした財政運営をして、ある意味で、夢が語れるようにと。今日はあまり夢を語っていないなど。それほど今、心に余裕がないのかもしれないかもしれません。そういうところも反省しながら進めさせていただければと思います。ありがとうございます。

- 町長さんが4年間のうちの2年間で、ある程度の道筋をつけるという言葉を使われとったんですが、やはりハード面でどうしても縮小しないといけないところは、私は議会の皆さんも一緒ですが、やっぱり説明をしっかりと、お互いが思考して、住民の皆さんに理解してもらおう。4年でできるものが、8年になってもいいじゃないですかというようなところで、思い切った政策をやられるべきだと思いますので。

20年間で邑南町が人口が9400人、9500です。しかしながら今、川本町、美郷町についても言いましたが、今、一番人口の減っているのが美郷町、そして川本町、そして邑南町というように、やはり20年間いろいろな面に金をかけたその成果が、ある程度邑南町の人口の減る率が少ないというのも、これは結果的に20年で出ておりますので、やはりそういう人口のことに對しましては、締めるときにはぐっと締めるというような格好でやっていかない限りは、今からの20年は難しいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。はい、どうぞ。
- 田所地区の〇〇といいます。私は、森林環境税、これについてちょっとお願いしたいと思っています。この6年度からは、住民税を払う方が納税者になって、そういうことで関心が出てくるのかなと思っていますが、まだまだ邑南町の山は85%あるんですが、関心が少ないんじゃないかということで、町長が重点項目に入れておりますというように、広報、あるいは、ここにも今後取り組んでいくところに、農地維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策の実施ということをして上げておられます。山も含めてやってもらえるのかなと思っています。

それで、ちょっと振り返ってみると、大賀課長が産業支援課長で、今、総務課

長。それから、白須副町長がその後任で、産業支援課長だったので、私も譲与税のときに、そのときに前倒しでいろいろ予算が邑南町に上がってきとったんだけど、これについて元年度と2年度には積立金を使わずに、その2年間で3千2百万円くらいあると思うんです。ホームページをちょっと見ると、そういうのが公開されております。

ただ、5年度がまだアップされていないので、何であんなに遅れているのかと。もう決算も終わっているし、そういうところはどうなんかなと思っておりまして。そういうところも早め早めにどういうことでこういうのを使ったという内容を、もうちょっと細かく広報でもいろいろ間伐をやったりして、それから基幹林道をつくったり、そういうところに使われているのはわかっているんだけど、それは写真を入れて、皆さんがそういうことで森林環境税が使われているということがよくわかるようなことで、広報も。あるいはいろいろと意見が出たときにでも、こういうことで知らしめておりますということをやってもらいたいと思っております。

それで、今の積立金が3千2百万円くらいあるんだけど、これはどういうふうにされておるのかなと。年度以降に事業に必要なだから、積立をしておりますよという理由だと思うんですけど、それが今でもどういうふうに6年度ではそれが使われたのかどうか、そういうのがわからないから。計画も含めてその内容をもうちょっと細かく知らせてもらいたいなと思っております。

- 白須副町長 副町長の白須です。前に担当をしていたこともありまして、最初は私の方から説明させていただきます。積立金ですが、積立てしたものについては、基本は翌年度にはしっかりと使うということで予算組みをしています。ですから、なるべく毎年積立金が少なくなるように、予算組みをしています。

ただ、予算計上したんですが、実績がそこまでなかった場合はそのまま積立金に残ってしまいますので、それはまた次の翌年にそれを財源に予算組みをしていて、決して他のことに使ったり、貯めたままにしていることがないようにしています。

それから、広報については、今後ホームページにも、令和5年度はまだ掲載されていないということだったんですが、毎年使い方については広報させてもらっています。ただ、今、言われたように写真を使ってとか、そういった見やすい形の広報はしておりませんので、そこはちょっと研究させてもらえればと思います。

- 6年度に配分の見直しがあったでしょう。大都会に配分されとるから、それが割合をちょっと変えて、そういうことで配分しますよということで、かなり増えたと思うんですよ、6年度は。そこら辺りがどのくらいになったとかね、そういうところも知りたいということがあります。

- 大屋町長 ありがとうございます。邑南町はさっき言われたとおり山が85%ある以上は、もうちょっと有効に活用しないといけないという思いと、きちんとした管理ができないと、どんどん山が迫ってくるじゃないですけど、遊休農地がそうじゃなくなってくるとか、鳥獣害の被害がということで、言っていたいたとおり、集団的な管理をと思っています。

先般、東京で、林野庁で意見交換があって、県もそうなんです、邑南町は比較的、頑張っているイメージを持っていたいて評価が高いです。邑南町の取り組みを真似るとか。たぶん今まで森林環境税でやっていたことを国が予算化していただければ、その分、町は他のことに使える。

併せて山の関係はすごくいろいろな予算があって、もう少し頑張っという予算を邑南町が取り込めるようにすれば、森林環境税は自由度が高いので、組み合わせてもうちょっと山に対して投資ができるかなという思いを持っています。今日も課長会議があって基盤整備、農業関係のことと、山の関係は情報収集しないとわからないことがたくさんあるので、町長としても頑張りますと宣言したので、頑張ります。期待していただければと思います。よろしくお願いします。

- 田所地区の〇〇と申します。よろしくお願いします。実は農業振興について、お願いをしておることについてです。この度、産直市、道の駅ですね、これを新しく建て替えておられまして、大変ありがたく思っております。前の産直市はどうも、駐車場が狭くて、他所から来られた方も駐車場を停めるところがないから、そのまま出ていかれる方もあったように思います。そういう点では、非常に期待しております。

また反面、心配なのは、生産が伸びていかなければ、産直市の運営が難しくなってくると思います。私もわずかですが、農業をさせていただいております。今、農家の人が一番困っているのが、獣被害ではないかと思います。イノシシであるとか、シカ、サルとか、その他いろいろな獣が出て野菜を食べたり、被害を被っております。

それで、今獣を捕獲するのが捕獲資格のある猟師さんをお願いをして捕獲をしていただいておりますが、その捕獲のときの町から補助金が6千円でしょうか。あると聞いております。その猟師の資格を持っておられる方も年々、高齢化されてきて、若い人が引き継いでくれる者がいないと大変だと思います。猟師さんの話も聞いてみるんですが、捕獲した一頭あたりの補助額の6千円がもう少し何とかならんのかなと。やはり、若い人が後を継いでくれないといけないこの資格ですから、そのためにももう少し補助額を上げていただいて、せめて一頭あたり1万円くらいにならないかなと思っております。

実は、合併前の瑞穂地区の場合はまだ補助金額が高かったんです。それで、猟師さんも十分に満足しておられたんじゃないかと思います。後継者対策からもその辺を一つご検討いただければと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。冒頭のあいさつで、ここではしなかったんですが、いろいろな地区で、産直市がよくなる一方で、米の値段や野菜の値段は高いけど、新たに農業に取り組もうとか、加工品をつくって売ろうとか、そういう雰囲気を感じられない。

そういう中で、どういう投資をするといいんだろうと思いながら、鳥獣害の被害の話が出たんです。捕獲奨励金をもう少しというのは初めて言っていたんですが。役場の中でも担当者が3人おられて、鳥獣害被害とか専門的に取り組んでいただいて、けもの新聞も出していただいております。その被害の軽減と捕獲奨励金と後継者の話がつながるかは別にして、最終的に後継者というか、猟をしてみよう人がいなければ終わるので、そういう人を育てるのに、捕獲奨励金になるのか、他の支援になるのかはあると思うんですが、ちょっと役場の中でも議論させていただいて、整理させていただいて、そうすれば跡が育つか。地域としてもこういう人たちが必要なんだということをアピールしないといけないと思うので、そういうことも含めて、第一は後継者のことで、そこをどうすればいいのかということ一度議論させてください。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 はい、どうぞ。

- 今回、お話できる機会をつくっていただき、ありがとうございます。今日は、子育てについてお聞きしたいことがあって参りました。私は、小学校の子どもを育てていますが、子どもたちが遊ぶ場所が少ないと感じていて、外で遊ぶのはいいんですが、雨が降った日に遊ぶ場所がない。なるべくSNSやゲームとか、そういうものに頼らずに子育てをしたいと思っているので、子どもたちが走り回れるような施設があったらいいなと思っています。

体育館とか、元気館のアリーナとかも問い合わせをしたことがあるんですが、1時間千円かな、ちょっと料金がかかる。それはもちろん照明とかもあるので、当然だとは思いますが。ですけど、雨の日が続く、毎日千円となってくると、ちょっと難しくなったりとか。それじゃあ、おばあちゃんのお家で遊ぼうかということで行き来したりもあって、遊べる場所がないかなと思っています。

田所公民館とか、ホールもとてもいいよと言われるんですが、4年生で大きくなってきて、バスケットボールがしたいとか、野球がしたいと言っていて、そうだと公民館ではちょっと難しくて。

土日であれば、大朝にタイヨウセンターという体育館があるんですが、そこに行ったらバスケットをやったり、野球をやったりしています。そちらは1時間で200円とか、利用しやすい金額でさせてもらっているんですけど、平日に30分かけて行くのも難しく、もしそういう施設が今現在あれば、教えてもらいたいのと、なければそういう場所があるといいなと思うんですけど、どうでしょうか。

- 大屋町長 ありがとうございます。かなり以前、子育てのアンケートをとったときに、遊ぶ場所という話がたくさん出たんだと思います。それで、香木の森やふれあい公園に遊具の整備とかもしました。おっしゃるとおり、確かに雨が降ったりしたときに、気軽に遊べるとか元気館のどこかで走れるとか、大人もそうですけど、ないなと思いました。

それで、SNSに頼らずにということで、ちょっと踏み込めなかったんだけど。来年度予算で、実は、0歳、1歳、3歳のお子さんに本を配布することをやっているんですが、ちょっと見直しませんかという投げかけをしました。その思いは、保護者さんに本を読む余裕があれば必要だけど、町が本を渡してよしみたいなのも、どうなんだろうと。読む余裕だとか、そういう環境を整えてないと、渡す意味があるんだろうかという思いがあって。

おっしゃるとおり、その延長線上で、確かに特に冬場に遊ぶ場所と言われると、なかなか難しいのでなるべくいい答えが出せるように少し考えさせてください。アンケートをすると、やっぱり遊ぶ場所がほしいという投げかけがあると、たぶん香木の森でも遊具をつくってよしだったんです、今までは。

ただ、思いにしっかり答えているかどうかは別なので、やっぱりやったことと、思いが伝わるかというのはあるので、こういう機会で発言していただいて思いが聞けたので、ありがとうございます。

もう少し踏み込んだ中で、日本一の子育て村をどうすべきかというのをしています。本当に必要だと思われることができるよう、やり取りを深めながらさせてもらえればと思います。空いている施設はいっぱいあるので、一般開放の在り方もあるんだと思います。この日は解放するので、皆さん来てください。例えば、100円でいいですよとか、参加料とかいうやり方もあると思います。無料でというのは、あまり長続きしないので、良くないと思っているので、お互いに負担できる料金で、こちらでもできる範囲でという感じでやらせてください。

少し役場の中で、来月には議会があって議員の皆さんが一般質問されるので、役場の課長も集まっているいろいろな議論するので、そういうところでちょっと話をさせてください。ありがとうございます。

○ ありがとうございます。ちなみに、小学校の体育館は個人的に使えるんでしょうか。

●大橋教育長 ありがとうございます。調査をしてみないといけんですが、基本的に個人での貸し出しはしていないと思います。ただ、料金についてですけど、小学校の場合は料金設定がありませんので、もし団体等で使われる場合は、無償で使っていただいていると認識しております。個人での使用については、ちょっと調べさせてもらえればと思います。

○ いつお答えが聞けるでしょうか。

●大屋町長 お手数でなければ、今日、表紙に町長への手紙というのをやっているんです。もう一度、ここにメッセージを入れていただけると、お名前とか住所とかメールアドレスがなくてもいいにしているんですけど、メールアドレスだけでも入れておいていただくと、そのまま教育長にまわして返事をするように。できるかできないかとかをさせてください。

今後の対応をこうしますとか、こういうことができます、こうしていきますという方針は改めて町政座談会の全部のまとめの中で出させてください。申し訳ないです。直接返事をする方法は、ここに送っていただくと一番ありがたいです。

あとは、皆さんは、ここに送っていただいてもいいですし、町のホームページに町長への手紙で、いつでも出せるようになっているので、そこも使っていただければありがたいです。とりあえず、返事はさせていただきます。公式には改めてということとさせていただきますので、使ってください。

○ ありがとうございます。

●大賀総務課長 はい、すみません。

【元気館「遊び場」解放について 令和7年6月23日～】

「子育て支援」の一環として、週休日に健康センター元気館アリーナを遊び場として開放しています。

〔実施日〕 土日の日直対応時（休館日以外）で施設予約が入っていない日

〔実施時間〕 8時30分から17時15分まで

〔実施場所〕 元気館アリーナ

〔利用者〕 保護者同伴の幼児・児童

〔利用料〕 無料

詳しくは邑南町ホームページに掲載しています。注意事項をよく読んでいただきご利用ください。

○ 高原の〇〇といいます。町長さんが所信表明で有機農業を進めていきたいと言われたと思うんですけど、ぜひ力を入れて進めていただきたいと思います。それで、どうやって前へ進めようとしているのかをお聞きしたいと思います。

今、有機米が月一回、学校給食で使われています。有機農産物を公共的に支えて生産者を励まして、生産を支えていくことは本当に大事なことでと思っています。千葉県和泉市では全量有機米ですし、島根県の吉賀町も平成10年から全量有機米になっているように聞いています。子どもの成長のためにも、ぜひ全量が

有機米になる方向を目指していただきと思います。そのためには、生産農家を増やして生産量が増えなければなりません。それから供給する仕組みをつくっていかねばならないと思います。ぜひそういう方向でやって頑張ってくださいと思います。よろしくお願いします。

- 大屋町長 ありがとございました。有機や無農薬だとかそれぞれの考え方ですし、最終的にそういう方向にいかばいい、技術面でということで、所信表明では技術ということばを使いました。来年度予算については、今年と同じよう増やしてはいないですが、今までどおりで有機米を学校給食に続けていきたいと思っています。

それで、生産を増やすかというときに、和泉市の例も出されたんですけど、例えば米でいうと、水管理によって除草するみたいなこともあって、あとは合鴨を使われるとか。今、合鴨のロボットもありますよね。そういうのをいろいろ思ったときに、邑南町でやろうと思うと、土手がちゃんとしているとか、水面が均平でないと機械が使えなくて、そういう面でいうと、圃場整備とかきちんとしてないと水管理で何かをしようとか、次のステップに進めないなと思っています。そうすることで基盤整備とか必要なやっていくことによって、機械化ができるとか新しい技術に取り組める。そこから有機につなげるということをしていかなきゃいけないけど、その前に基盤整備をきちんとした田んぼでないと難しいなと思いました。

そういうことも含めながら、再生協とかでも話をしてもらったり、農業委員会でも提案を受けながら、基盤整備はさっき言ったとおり、県や国の制度がいっぱいあるので、そういうのを使っていったら、それが次の技術の発展になって有機農業につながればいいなと思っています。

- 圃場整備をしてからだいぶ年数が経っていますから、だいぶ壊れているところもあると思うんです。そうでないところもありますからね。そういうところからも進めていけるんじゃないかと思っています。
- 大屋町長 ありがとございました。そういう場所もあるかもしれないし、いろいろな技術があって、今時の技術を入れて規模拡大をしたい人はして、有機農業に取り組みたい人は取り組む。それぞれの思いが叶うには、最低限圃場が均平でないと苦しいかなと。手間ばかりかかるのでということをおもいました。またいろいろ相談させてください。ありがとございました。
- 朝原地区の行政協力員をしています〇〇といいます。2点あるんですけど、一つはインターネットの光回線のことをお聞きしたいんですけど、邑南町はケーブルテレビが管理しておられるものしかないですよ。それで、料金が割高で通信速度も遅いと思うんですよ。確かケーブルテレビは100Mbpsが最高ですよ。現状、1Gがどんどん出ていて、それで定住とか考えておられるのに、IT系の企業さんなりに来てもらうにしても、既存の企業も学校もそうなんですけど、動画のやり取りをするときに困っていらっしゃるんじゃないかと思うんですけど、100Mだと、かなり厳しいんじゃないかと思うんですけど、その辺はどうなるのかなと個人的には思っているんですけど。
- 大屋町長 ありがとございました。ちょっと先日もそういう話が出まして、担当課とも話をしたんです。現実的に邑南町の邑南町以外の会社がくることはまずないです。NTTが入ってくるようなこともないです。邑南町は今、きちんとやっています。100Mが実際に不便かどうかということ、日常生活とか、動画のや

り取りではあまり不便はないと思います。料金が割高かどうかは、ちょっと皆さんの判断なので。それで、全国的には1 Gとかいろいろあるんですけど、利用者が邑南町は決して多くないので、今の中でそんなにスピードが落ちるわけじゃない。都市部がそれだけ本当にスピードが出ているかということと、企業にもいろいろ聞いたんですが、いろいろな仕組みがあるので、この範囲でできるようにやる。それが本当に困るなら言うけどと。企業にとってそうそう今のところは困らないという話を聞いています。

すみません、そこから先の高速インターネットをつなげて企業誘致をするかということになってくると、冒頭にあまりふれなかったんですが、今、邑南町は進出企業が何社かあって、どこも人手不足なので、まずそこをと思っています。インターネットに関するようなIT系の企業は環境もありますし。ただ誘致をしても雇用は少ないんですけど来た人たちで頑張っているだけなので、それはそれでありがたいと思っています。どこの町も取り組んでいるので、今うちがそこに積極的にいくかということ、そういう状況ではない。ただ選択肢としてうちの町を選ばれても、今の環境でそうそう不便はないかと思っています。仕事内容ですけど。

あまり答えになっていないんですが、今後もっと早くないといけない状況ができたときには、おおなんケーブルと民間とのつながりの接続を速くすれば済むことなので、コストはかかりますけど。線を張り替えなくてできる範囲だと思うのでやっていきたいと思います。今のところ、当面は現状でやっていければと思っています。そこに対してあまり不便ではないだろうと、ゲームをやる人にも聞いたけど、若干、新しいゲームができたときに一斉にダウンロードすると邑南町がちょっと遅れる程度で、そんなに困らないですよと言われたので、

今のところ大丈夫かなと思っています。すみません、答えになっていないんですけど、あまり直接的な不便は見えていないということです。

- 例えば、隣の北広島町は1 G来ていますよね。それで、邑南町の1 0 0 Mと料金が5 0 0 円しか変わらないんですよ、1 0 0 Mと1 Gが。都会の方も1 0 Gという話になっていて、誘致企業が来るか来ないかは努力だと思うんですけど、なかなか条件を整備しておかないと来るものも来ないような。生成AIの話になってきますので、その辺は考えられたらいいと思うんですけど。

- 大屋町長 考えておきますとしか今は答えられません。すみません。それで、邑南町が本当に1 Gとか1 0 0 Gを入れたときには、さすがにこの料金の倍以上とか、利用者の関係と、隣はたんぶん大手だと思うんですけど。FTTHさんとか、そういうところが入ってきてもらって一番いいんですけど、ちょっとその可能性は少ないだろうということなので。

ただ、需要が増えてくればそういう会社も来る可能性があるんで、卵が先かニワトリが先かですけど、その辺も考慮しながらいろいろ考えさせてください。すみません、ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

- 田所地区の○○と言います。私は邑南町の観光について、ちょっとお聞きしたいんですけど、私は道明で林道の残土していたところに、草が生えるばかりじゃだめだと思って、花を趣味でやっているんです。邑南町はすごく素敵なところだと、わりと浜田とか江津とかリピーターがあるんです。

このマップは、ポケットサイズでちょっと見にくいというか、いろいろなグル

メの店とか自然の観光地が載っているんですけど、四季を通していつからいつまでは、ここが見どころだとか、そういうのが一切ないので、来られる方がどこに行っているのかかわからないという人がたくさんおられます。

邑南町が好きだという人が毎年来られるんですけど、松江の方でもホームページを見て来られる方があるんです。立岩神社とか赤羽滝とか、気に入って毎年来るという方もおられます。立岩神社に行ったら、必ずあられを必ず買って帰ると。邑南町を観光される方は必ず道の駅へ寄って帰られる方がほとんどです。

瑞穂の道の駅もお土産のところが、今からはたくさん出ると思いますけど、道の駅を目指して、自然の断魚溪とか、今のような観光地を好きな人は必ず寄って帰られる方が多いんです。もうちょっと見どころの、いつからいつまでがここが見どころ、冬はハイランドのスキーとか、夏はどこというのを明確にした観光マップをつくってほしいと思います。

それで、グルメも閉店になったところも載っていることもあります。もうちょっとマップを、観光のみどころやら、マップをもうちょっとわかりやすく作成してもらいたいと思います。邑南町が大好きな人がいっぱいおられます。兵庫の人とか、松江からでもハンザケ会館に行ったり、私のところへもそこから来ていただくんですが、モリアオガエルとかイモリくらいしか見るのはないですけど、子どもさんを連れて来られる方も毎年います。自然を求めて来られる人は、邑南町が一番いいんじゃないかと思います。ぜひ、もうちょっと道の駅からの観光バスとか、何か広げてほしいなと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。邑南町の弱点ではないですが、過去から議会からもずっと質問がある中で、町内の施設をまわる、道の駅なり霧の湯も再開しますし、羽須美は三江線の跡地活用で頑張っておられます。それぞれが窓口になってお客さんが来られた時に、特に今から山陰道がつながってくると、松江、出雲、広島は当然だと思います。来られた方がそこからまわって行かれる。趣味でハンザケが好きな人が来たら、ついでじゃないですが、ここもありますよと、町内を周遊してもらえるように、もうちょっと邑南町の滞在時間を長くしてもらうというのは大事だと思っているので。

今、町の観光計画はあるんですけど、少し古いというかコロナ前だったので。新しく道の駅もできることもあって、来年度は担当課で少し町内周遊を課題につくり直しませんかという投げかけをしています。今日のご意見も参考にさせていただいて、また計画をつくって、そこに反映して、皆さんの思いが踏み込んで成り立つような計画とパンフレットもちょっと。役場はいいと思って一生懸命つくるけど、実際には町民の方や使われる方が必ずしもそうではない。思いが伝わっていないのがたくさんわかったので、改めて一緒にということとさせていただきます。新しいものがつくればと思っています。ありがとうございました。

- 私たち地元の者でも断魚溪とか、二ツ山とか、赤馬滝とか、よく行くんですが、移住者の方は私よりもっと滝を見てまわったり、田所の郷土館とかマップに載ってないんですよね。私も毎年行くんですが、見に来てほしいと職員の方も言っておられます。ぜひマップに載せてあげてください。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。
- 時間がきそうなので、今日は一点だけ聞かせてください。石見中学校の新築のことと、統合のことについて、町長さんと教育長さんにお聞きしたいと思います。瑞穂の高原地区の〇〇と申します。

まずは、教育長さんにお聞きするんですが、石見中学校は教科センター方式をとられたということが昨年の町の広報7月号に載っておりました。その教科センター方式というのは、生徒たちが教科別に教室を移動して学という方式で、この広報には、英語、数学、国語の他にも社会とかいろいろあると思うんですけど、そういう教科がどうなっているのかということ。

もう一点は、我々が小さい頃には音楽室とか美術室とか理科室というのは特別教室ということでその実験などがあるので、そういうものは特別な教室でやりよったと思うんですけど、教科センター方式という教室は、それは今、石見中学校には何教室あるんですか。

- 大橋教育長 ありがとうございます。教科センター方式ということで、今年度の2学期よりスタートさせていただいたところです。方式につきましては、今おっしゃられたとおり、イメージとして以前よりありました音楽だとか体育とか、理科であったり、そういった教科はまずその専門の教室に行って学ぶのが通例だったと思います。それを5教科にも取り入れさせていただきました。つまり、その教室はホームルームではないので、1年生から3年生までまず何を学んでいくのかということで掲示物が充実できます。1年生にとっては、3年生になったらこういう勉強をしていくんだとか、学びの功績を明確にしていく。3年生はその逆です。そういった中で、学ぶというのを今までは自分の教室で教科書を机の中に入れて、教科の先生が来られたらその教科書を出して学んでいくということですが、自ら学びを取りに行くという基本的な姿勢を身につけていただきたいという思いで、毎時間、基本的には大移動です。今までは、自分の教室に教科の先生が来られるわけですけど、今度は自分が教科書を持って自分が移動していくというようなところで、まだ数ヶ月しか経っておりませんが、いろいろ反省材料もございまして、子どもたちのアンケート等を見ると概ね良好であるなと感触も持っております。以上です。

○ それで、今言われたのは、5教科ということは、国語、数学、英語、社会、もう一つは何ですか。理科も入るんですか。

- 大橋教育長 基本的には全ての教科に対応できるようになっております。

○ それで、その移動をすることによって、町の広報には時間割の把握等の自己管理が求められ、生徒自身の主体性を育むことが期待されるということで、そういった教育効果があると、だからやったんだという言い方なんです。

それで、町長さんは、この度、唐突に合併のことをされましたが、そのときに今も数年はかかるといわれているんですね。数年をかけてやると。ということは、今のような邑南町の石見中学校の子どもはそういうスタイルで学べるが、羽須美中学校、瑞穂中学校の子どもたちは、こういった教科センター方式というのは考えておられるんですか。

当然、向こうはやってこっちはやらんということは、私はおかしいと思うんです。ということは当然、7年度予算で要求しておられるのか、要求したら予算がつかなかったのか。そのところは、教育の均等ということを考えれば、当然やるべきだと思うんですが、そのあたりの見解はどうでしょうか。

- 大橋教育長 はい、ありがとうございます。今、おっしゃられたように残りの2つの中学校をどうしていくのかという話になるだろうと思っております。我々も、視察等をさせていただきました。石見中は教科センター方式用の校舎を造らせていただきました。一方、教科センター方式という方式を取り入れて通常の学校の

教室で上手く工夫して教科教室用に様変わりをして使われている学校もたくさんございました。

まずは、石見中学校でこういう学びを取りに行くという本質の部分での成果をもう少し、時間をかけさせていただいて、期待するところは非常に大きいんですけど、その成果をしっかりと上げていきたい。そのためには、今は石見中学校の先生方に協力をいただいて、共に努力させていただいているのが現状でございます。

○大橋教育長 それでは、今のような形でいかれるということは、5教科の教室には特別な設備はないということですね。机と椅子があったら、これは英語を習う教室ですよ、これは国語を学ぶ教室で、これは数学の教室ですというような形で5教科がうわにあるという言い方ですか。

●大橋教育長 ありがとうございます。うわにというか、今まで使っていたホームルームが1年1組の教室がここです。1年2組みはここですよというのが、全て教科センター方式の教室に変わりました。ということで、正直、ホームルームはありません。便宜上、朝、集まる教室は設けていますが、その教室自体が1時間目は数学の教室に変わっていくとかになっていますので、教室としては、そんなに増えてはないと思っています。

○ それでも、土居前教育長さんは、教科センター方式にすると、教室の数が増えると議会で答弁されえおります。

●大橋教育長 増えたというか、いくつというよりか、ホームルームが今は石見中が5クラスです。その5クラス分のホームルームの教室はありません。そこが全て教科センター方式に変わっているので、数はうろ覚えで申し訳ないんですが、そんなにたくさん増えたという印象ではないと思っています。

○ 私が言いたいのは、石見中学校は昭和43年の建築と書いてありましたよね。43年らしいんですよ。瑞穂中学校も50年代ですよ。そのときから比べたら、子どもの数はごつつ減っているから、これは私の推測ですよ。空き教室があるんだったら、そこを教科センター方式にという形で、そこで数学を学んで、そこを英語ということはどうかと思うんです。

ということは、空き教室になっているということは、机、椅子がみんな撤去してあるなら、そこにそのものを入れれば特別な設備はないとおっしゃったので、そういった自主性を育むことができるという教育だと言うなら、そういう機会を与えてやるのが教育委員会として当然のやりかたじゃないかと思って、ご質問をしようなんです。

数年もかかるなら、数年かかるなら、今年の4月に入った子どもは教科センター方式という授業を受けずにそのまま出てしまうわけですよ。それでは、やっぱり邑南町の同じ子どもとして、同じ中学生として学ぶなら、そういう学場を提供されるのは当たり前だと思いますので、それは費用の見積もりもかかるかもしれませんが、それは早急に。教育長さんは教育の関係で、設備の方は町長さんになると思うので、町長さんがその辺のことを指示されて、当然今の統合問題を町長さんが言われましたが、中学校が1校になるか2校になるかわかりませんが、どちらにしてもその間において、整備される問題だと私は認識しております。

●大屋町長 ありがとうございます。町としても、石見中学校がこういう教科センター方式にしました。いいですよと言っているの、本当にいいなら全ての学校に配慮すればいいだろうという議論だと思うんです。そのとおりだと思います。

ただ、予算はあるけれども初めてで、たぶん県内でも初めてだと聞くので、邑

南町としてまず動く中で本当に利点だけが出てくるのか、マイナス面はないのかということもあると思います。いい面とそうじゃ内面がある中で、本当には子どもたちの学びの選択という中で、全てが一緒にいいのかということもあって、少し議論はしましたが、邑南町の中に今のところ２種類あってもいいんじゃないかという話はしました。

今後、本当に予算が出るなら、おっしゃるとおり教室がたくさんあるから、今の状態でセンター方式を、そういう選択肢もあると思います。ただちょっと動き出したばかりで、本当のよさを出すためにはどうすればいいのかというところを試行錯誤があるので、また議論する中でこれがいいから、みんな同じようにしようということになれば、なると思います。

○ ただね、県内の学校では珍しい教科センター方式をとりますと書いてあるんですよ。ですから、言い面があるから採用されたんでしょう。今から検証してどうのこうのいう問題じゃないと思うんです。そのために２９億円の予算がかかっているんでしょう。私はその詰めが非常に甘いと思うんですよ。

● 大屋町長 若干、お話の仕方もあったかもしれないですけど、いい面があるので取り組んだのは確かです。その本当にいい面を生かすためには、どうするかという運営面があるので。まだ先生も含めて慣れないところなので、慣れたところでしっかりといい面が出せることがあれば、出せることはしっかりわかっても、瑞穂中学校、羽須美中学校に広げても何らとまどいなく移れるようにという状態にしてから移るべきだという判断です。

決して、いいかどうかかわからないという意味ではないです。現実にはちょっと子どもの移動であるとか、今までの小学校との違いがあって、教室がないということに対する不安であるとか、それは別の意味なので、学びのよさとは別で生活面のよさはどうかということもありますし。

今回の予算は、言い訳するわけじゃないですが、一人一人の学びを支えるという意味で、人的配置はしっかりしてきたんですけど、そこも含めて人の動き、サポートする人の動きも含めて検証させていただいて、本当にいい形で広げていければと思っています。検証するというのは、そのよさがどうすれば間違いなくだせるかという意味です。

○ 内部で十分検討して、前向きに取り組んでいただきますよう、お願いします。それともう一点は、町長さんにこの度の合併問題が唐突に出てきたということで、一般質問でどのくらい出るかなと思いよったら、３名の方しかありませんでした。その一般質問は、町長さんはどの質問に対しても町長さん自ら答弁席に立たれて、答弁されておって、さすが大屋町長さんだなと関心して１２月の定例会は見させていただきました。

その中で、漆谷さんと瀧田さんと日高八重美さんが、統合問題について若干ふられました。町長選の選挙公報に載せておらんのに、唐突に統廃合について言及されたのはという質問があったときに、町長さんは口頭では統廃合の考え方を明確にしていると。

私は、町広報と議会報しか持っておりませんので、議事録を見ておるわけじゃないませんので、そこのところはもし違っていけばこらえてもらわないといけません。私は情報を得るにはそれしかないの、それを元にして聞くんですが。漆谷さんのときにも、口頭で聞かれたときには自分は答えていると、おっしゃっておられました。でもちょっと、口頭で答えられるということは選挙公報に載っ

ていないということは、大屋町長さんが立候補のときに個人的に聞かれたことについて、個人的に答弁されたという域を脱しておらんと思うんです。ですから、私はそこで一般質問された方も黙っとりんさったから、これは対応がまずいと。大屋町長さんの答弁はおかしいと思いました。

それで、ずっと聞きよりましたが、大屋町長さんは自分は財政難を理由に統合するとか、そういうことは問題があるということを言われたので、全部大屋町長さんが21年の4月から議員になられてからずっと、一般質問をやられたのを全部見ました。そのときに言われたが、今の4年の9月の議会のために、石橋町長に対して、財政難を理由に合併ということがあるんですか。統合ということがあるんですかと質問されたときに、あのときにはコロナが流行っておりましたので、オンライン授業とか、いろいろな授業の仕方があったので、町長は財政状況は別問題であると、基金も積んでいると。だから合併は考えておらんと答えられまして、大屋新町長さんもそのときには、財政状況で統合を考える必要がないのであれば、小規模校がどう生きていくかということを教育長さん、ちゃんと説明して理解を得ろという答弁で、土居教育長さんは小さいからできるよさを生かしていきたいという答弁をしておられます。

それともう一つは、30年の4月にも大屋町長さんは石橋町長に対して、なぜ小中学校の統合をしないのかという質問をされております。町長は学校は地域づくりの核であるので、統合するつもりはないと言われて、大屋議員さんも私も町長と同じで子どもたちの学力、地域の発展などからも、現在の小中学校を残していくと考えると。

ただ保護者が、小規模校は学力に不安があるという心配があるの、そこを払拭する努力が必要なのではないかということで、合併はしろと言っとってないんです。あれまでは。それで、いつの時点からその思いが変わったのかなと思って。この30年の当時も生まれてくる子どもは50人前後なんです。だから当然、そういうことがあれば、統合ということは誰も頭の隅にはあると思うんです。

だけど、答弁でもタブーだったというようなことを言っておられましたが、議会人として町に対してタブーということはないと思うんです。行政と議会は車の両輪、それから町と行政と議会は是々非の関係でやっていくというのが筋で、いつも常々言われている言葉ですので、思われていたら当然、言われないういけんかったと思うんです。

そこで、町長さんにお聞きしたいのは、いつの時点で今の合併はせん方がいいよと言われていたのが合併しようと豹変されたのは、いつ、何が原因でそういうふうになられたか聞かせてください。

- 大屋町長 12月議会のときに、選挙中にふれていないだろうと言われて、ある意味、突然ぱつと言われてそのときは聞かれれば答えていましたと。その聞かれればという原因は、あとで振り返ったら、いろいろなチラシを出した中で公共施設の統廃合は書いています。当然、学校も含めたつもりですけど、学校というのはなかなかふれるのが難しいので、あえて学校とは書かなかったところもありますけど。意識はありました。サービスは残しますと言うのはいろいろな選択肢を、今日も言ったとおりできる範囲でしなきゃいけないということです。

過去の議会での質問も基本的には覚えています。学校に対しても、数の大小だとか数合わせで大きくなければいけないという意識は何もないです。なので、小規模校でも、必要があれば学力に差があるのかとか、あとは、今後将来的に町の

財政が厳しくなったので維持できないので統廃合をしますということはないよね？ということを知りました。地域の思い、保護者の思いで学校の統廃合が必要ならする。そうでなければ、残したいと言えば財政的に大丈夫ですよ？という質問をしてきたのは事実です。そこは何も間違いはないです。

ただ、現実問題がどこでということはないですが。あと、すみません、タブーという話が出たのはおそらく、残しますよね？という質問はできる雰囲気があったんですけど、統廃合をすべきだということは非常に聞きにくい雰囲気だったので、それに対して統廃合の議論よりは、積極的に統合すべきじゃないですかというのは聞きにくい状況であるということ、あえてタブーと言ったところはありません。

町としても今後の教育の在り方をどうすべきかという議論をあまりしてきていなくて、平成22年くらいに日和小学校がなくなったときに、教育の在り方の議論をしています。それ以来、年数が経っているので、今の保護者で今の地域の人と一度すべきじゃないですかということも投げかけたんですけど、なかなかそうじゃなかったです。そういう中で立場が変わって、なんで変わってきたかというのは、やはり統廃合を議論してくださいというのも、今日はあまりふれないでおこうと思ったんですけど、学びが変わってきている。それは今までは、どちらかというと、学力はテストの点だったんです。それがそうじゃなくて、それぞれが生きる力というときに、大学入試が変わって、今年から高校入試も変わってきました。そういうところにきちんと対応していく方法、また学校に生きづらいお子さんもたくさんいます。私自身も決して、混じっちゃうことが全てだとは思いません。いろいろなお子さんがおられる。お子さんの思いをきちんと汲み取って対応していくためには、マンパワーとか今のままでそれができるのか。社会から求められる教育の質の変化に対して、今の町で、今回もやり取りをしたのは、マンパワーというか、予算をつければ人が確保できるならいいですけど、そうじゃない状況がある中で、どうなのかという話もしました。外国人のお子さんもおられます。

そういうことを思えば、町の将来としても、町内の資源やマンパワーを生かしていくためには一定の統廃合は必要だろうなと。この先、これを放っておくと、将来出てくる統廃合は中学校1校、それぞれの旧町村単位で小学校1校、全体で中学校1校という選択肢しかなくなるので、自分なら過去の経緯もあるので、矢上高校、石見養護学校がある中で、できれば中学校が複数、その中学校の元にも小学校が複数。大幅な統廃合じゃないことができるんじゃないかという思いがあったので。人に一つにされるよりは、自分の思いの中で選択肢がたくさんある仕組みの統廃合が取りたいという意味合いもあって、あえて統廃合と。

この話は選挙のときもいろいろな人とも。選挙で統廃合をあまり出すとよくないかなというところもあって。すみません、人前でというのは、YouTubeの中でも、集まったときに聞かれたのはきちんと答えて、それはそのまま流しています。その辺の事情もあったりしながら表には出しにくいというか。タブーというのは、やはり誰も統廃合にふれたくない状況だと。

結局、最終的にいろいろなことを思えば統廃合かもしれないけれど、今は教育委員会には学びの在り方を考えてくださいと言っています。地域みらい課には地域との関わりをと言っています。全く違う答えが出るかも知れないし、残す方法が出るかもしれない。期待を持たせるわけじゃないけど、そうじゃなくてもっと

しなきゃいけないかもしれないということになるかもしれない。今なら、その選択肢ができるから、きちんと議論をしましょうという思いです。決して一つにして効率化にしたいという思いではないです。そこをちょっと汲み取っていただければありがたいです。

- 提案された町長も、脇におられた教育長さんもやられとりますから、死んだ子の歳を数えるではないですが、石見中学校の改築ですよ。あのときに話を出されるべきだったと思うんですよ、この話を。120人くらいでしょう、石見中学校も。それで、瑞穂と羽須美で100ちょっとです。町長さんも答弁の中で奥出雲町のことを出しておられましたが、あそこは中学校が2つ残るんでしょうが、仁多は6つあるのが1つになると。横田町は4つあるのが再来年は1つになると。ことを言うておりますので、町長さんの口から奥出雲町というのが出たのは、そういうイメージを持っておられるのかなと思ったものですから。余計に石見中学校の改築のときに当然そういう話はされるべきだったと思うんですよ。

そのときの町長さんも教育長さんもおりんさんから、今当事者として言えるのは、大屋新町長さんしかおらんから、私はきついことを言いよるんだけど、そこで議員さんは、議論しんさんといけんかったと思うんですよ。

そのときに、亀山さんが令和2年の3月の定例会で、今の統合問題1本で一般質問されておるんです。これは今のとおり、統合の布石になるのか、水面下ではそういう話があるよということで、紙面に議会報に出ております。私らが石見中学校が改築と言いながら新築だなど知ったのはこれですよ。令和3年の8月に新しい校舎を造って今の校舎を解くと言って、これで初めて出たんです。こがあなことがあるんかと。そのときに調べましたよ、改築の経緯にこんなやり方があるんかといって。私が調べた範囲ではこれは改築ではないです、石見中学校は完全に新築です。新築をやるんなら、余計なあの場で議論をしっかりと、将来どうするんかというところまで行政と議会と意見交換をやって、それでこれでいこうやと出されるのが筋じゃなかったかと思うんですけどね。これは、さっき言ったように、死んだ子の歳を数えるのと一緒にこれ以上申し上げてもどうにもなる問題じゃないから言いません。

最後に町長さんに言いたいのは、答弁の中で子どもたちを最優先に、また子どもたちを第一に考えて統廃合を進めるということをおられます。長くなってもいけないので、結論から言いますが、建物を建てて地域のものが協力する学校もできると思うんです。子どもたちを最優先する、第一に考えるということは、登下校にかかる時間だと思うんですよ。今、スクールバスが走っているところだけじゃないですからね。山の上から下りてやってきて、初めて学校へ行く。今、スクールバスが矢上から口羽まで行くと小1時間かかります。それを考えれば、羽須美からいくかどうか知りませんよ。ただ、第一に考えると言ひんさるなら、子どもたちの通学登下校の足を、時間をどう短縮するのか。今の時代中学校で寮ということは50年前に流行ったような話ですから、それは当然考えおられてはしないでしょうから。そうすると大人の理論ではなく、子どもたちを本当に中心に考えたときには、私はそこだと思いますから、そのところをよく考えて2年間で方向性を決めると言われていますので、そのところを肝に銘じて事を進めていきたいと思います。大変長くすみませんでした。

- 大屋町長 ありがとうございます。やりとりをしてみて、若干、思いが正しく伝わっていないと思うところはあります。奥出雲の話もああいうふうになりたいん

じゃなくて、ああいうふうになっちゃいけないので。それ以外の選択肢で。

今、子どもたちを第一にというところで、通学の話をしたときにふと思い出したのは、美郷が統合したときに、少年補導員とかで川本警察署に行っていたときに、バスで通学になって地域の人とふれ合う機会がなくなって、朝バスに乗って帰ってくるだけで、あれでいいんだろうとか。それは地域にとっても子どもたちにも。そういう意味で少ししっかり議論して皆さんとも話をしながら政策決定させてもらえればと思います。

〇〇さんが最初に言われたとおり、今までの投資があったから今で。奥出雲の例を敢えて出したのは、奥出雲は邑南町より人口が多いです。ただ、子どもたちの数の割合は邑南町より低いです。それはやっぱり過去の投資なんだと思います。そういう意味で財政の再建で厳しいばかりを言っても、言われたとおり、しっかり。今やった政策の答えは、評価は5年後、10年後だと思っています。そこでよかったねと言ってもらえるように頑張ろうと思います。すみません、ありがとうございました。

○ よろしくをお願いします。

●大賀総務課長 ありがとうございます。その他には、はい。

○ すみません、時間があまりないと思うんですが、前から教育長さんには話をしていると思うんですが、ハンザケ自然館のことなんですが、オオサンショウウオは国の天然記念物になっていますよね。非常に珍しい生きもので、こういうのはもっと人が来て欲しい気がします。

それで、前にもお話をしたことがあるんですが、都会の人はハンザケというのが何かわからないという人がおるんです。オオサンショウウオなら分かるけど、ハンザケは何のことかわからんと。それで、道の駅が今度できますよね。その道の駅にでもオオサンショウウオの何かモデルみたいなものを置いて、これは国の特別天然記念物のオオサンショウウオですと。この辺ではハンザケと呼んでいます。すぐ近くにハンザケ自然館があります。そこでは、オオサンショウウオをたくさん飼っているの、ぜひ行ってみてくださいというような案内ができないだろうか。難しいでしょうかね。

●大橋教育長 ありがとうございます。道の駅でのというお話でございますけど、道の駅をハブにして、いろいろな観光施設、学習施設にもつなげていこうという思いは持っております。一部のスペースであっても、そういったものを紹介させていただいて、ぜひとも本物のハンザケを見ていただけるような道筋を立てていきたいと思っております。この天然記念物の関係で道の駅に展示スペースを設けて本物を置くということは、ちょっとできないんですけど、本物を見に来ていただけるように努力して参りたいと思います。ありがとうございました。

●大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はよろしいでしょうか。はい、どうぞ。

○ 皆さん、すみません、もうちょっとお時間ください。時間がないので、本当は前置きを長くして質問すればいいんですが、簡単にいきます。一つは、コミュニティスクールのことです。これはチラシを見ると、メリットしか書いていないんですが、デメリットがないということなんですよね。

私はデメリットもあると考えていて、例えば教育会の運営費はどうなるのか、その辺の予算関係。あるいは、やると学校の負担は増すけど、地域住民の委員さんの負担も生じる。それから、保護者の負担も増えますよね。連携協働してやる

んですから、地域住民の負担も増えると。それから日程調整が難しくなって、会議が夜になるとか。時間外の出席が要求される。あるいは、協議会の委員を選ぶのに、どうしても何かの団体の代表者とかいう人が出て、役員になった人の負担が益々増えてくるという気がします。

それで、その辺がどういうふうになるのかなという。デメリットもあるので、メリットばかり書いてあって、デメリットがないのでいいようにあるけど、本当はその裏で非常に負担が出てくるということがあろうと思うんです。

併せて、学校教職員の負担の問題です。今でも出ていますけど、例えば今頃の小学校を見ると、下校の時間が終わったら職員室も外から見ればブラインドがかかっているんです。人が出入りせんようにするんかもわかりませんが、そういった状況も見えておりますし。それは学校の教職員一人一人は、やる先生とやらない先生とあって、教職員の先生の思いがまだ残っていると思います。

というのが、例えば高原の場合、学校から児童クラブへ一人の先生が、よく子どもと一緒に来て、児童クラブの様子を見ている。もう下校した後ですよ。だからその先生が変わると、次の先生がやるかといったら、それは全くわからないです。今までそういうことはなかったのに、ある先生はそういうふうにして子どもを見守ってくれる。というようなところが、なくなってくるんじゃないかなと。

それともう一つは部活の問題です。地域の指導者がやるようになって学校は全然ノータッチがどうかわかりませんが。それで、学校の先生の働き方改革はするけど、地域の指導者も働いて、仕事が終わった後に行ったり、あるいは大会に引率して行ったり。これは指導者の働き方改革もしないと、自分たちの働き方改革ばかりやっても、給料はどんどん上がりますよ。その辺がそうになっているのかなと。

それから指導者の報酬はどうなっているのかとか、いろいろなメリットデメリット、不都合な面があるので、その辺も併せてコミュニティスクールの在り方もどうするんか、もうちょっと議論せんといいんじゃないかと。法律に基づいて、平成29年頃から国の教育関係の法律からきて、いろいろ進められてきて、今やろうとしているんです。そのことはどうするのか、今日は答えはいいですから検討してください。

もう一つは、テレビや新聞でものすごく話題になっているPFASの問題です。岡山県の吉備中央町はすごい値が出ているんです、有機フッ素の値ですか。これは、仮置き場の廃棄物が上水場の上流にあるから、水道水の中にそういうフッ素化応物が入っている。アメリカは、1リットル当たりの単位が20ミリくらいですか。日本は約50ミリ。まだ正確な値が出ていないから、やっているんですけど。50ミリの7倍くらいだったか、アメリカの7倍くらいだったかの値が出ておって、全国で調査しておるんですが、それは邑南町の値はどうなのか。調べておるんかというのを。皆さん、テレビや新聞にも出ていますし、皆さん関心があると思います。その辺をまた広報でも知らせてあげたらいいなと思います。

それから、学校の統合のことは〇〇さんが長く話をしんさったから、いいですが。これは、町長がそういう発表をされて、いろいろな子ども話をするときに、統合するんだからいいわという話が町民から出る。中には統合に賛成、あるいは残すのに賛成という意見もある。しっかり町民にアンケート調査でもして、その値を参考にされて検討された方がいいと思いますけどね。いいですよ、回答は。

- 大屋町長 少しだけふれさせてください。コミュニティスクールは、改めて回答

させてください。地域指導についても、別途します。

P F A Sの話は、皆さんに関わるので最近NHKでも出ています。邑智郡の中でも、邑南町も含めて検査は今までしていません。検査している町も、NHKの調査を見ましたが、ちょっとわかりにくいです。邑南町は、とりあえず順次ということで、今、5か所検査をしました。矢上でいうと、原山トンネルとかじゃないところで。今、速報値では一切出ていません。順次来年度にも全部、水源の調査をします。基本的には、廃棄残土とかの可能性は少ないだろうと思っています。

もう一つ、統廃合のアンケートは、今の時点で統廃合がいいですか、どうしますかではなくて、これからの学校の教育ってこういうことが必要なんです、そのために統廃合をすることに対してどう思いますかがいいと思うので。またご意見を聞かせていただきながら進めたいと思いますので、まず、こちらの方針を出させてください。来年度に向けて準備をしていく中で議論していきたいと思います。ありがとうございます。

- すみません、時間がおしっていますが質問させていただきます。町長さんが代わられたので、去年学校給食の無償化の署名が1100くらい出されて、前町長さんは受け止めると言われて、結局は値上げになったんですね。今、全国でも進んで、石破首相も2026年度から制度化したいと答弁されましたよね。それまでに出された町として、どう思っておられるのかお聞きしたいと思います。

先日、私は口羽小学校に給食に時間に有機米の話をしさせてもらったんですけど、そこで感じたのは、給食も教具だなと思ったんです。子どもたちは一日中学校にいるわけですね。午前の授業は無償、給食は有償、午後の授業は無償、何かおかしいと思ったんです。子どもが当たり前前に学校にいられる空間にするためには、給食は無償で、皆が家庭のことも気にせず安心して食べられることが必要ではないかと思っています。

それともう一点、1月の集金常会のときに田植え機にも課税されますというチラシが配られて見たんですけど、今は農機具や肥料やいろいろな資材も上がって大変な時だと思うんです。米作りも赤字だし、時給10円と言われていたがね。そういう中でも農家は80代、90代の方でも必死に米をつくっていこうと、農地を守っていこう、田んぼを守っていこうと頑張っておられます。そんなときに、これまでナンバーもなく、課税もされていなかったと思うんですね。そういうときに何でこういうふうにな今のようない時期に課税をされるのかと、何人かの声も聞いたんです。公道を走らないで、軽トラに積んで圃場まで行って、すぐ降ろして田植えをされたり。

- 大屋町長 はい、意味が分かるので時間になるので答えさせていただきます。田植え機の話をしてください。田植え機にナンバーがあるのと、公道を走れるのは別の問題です。車ではないので。課税をしているかどうかの印だけです。じゃあ、田植え機になぜ課税したかということ、一般質問で私がしました。ある意味、親切のつもりです。親切というのは、本来は皆さん農業者、事業者は減価償却資産は届け出をして課税対象です。補助金で入れようが、元の値段に対してちゃんと届け出をして150万円以上だと、1.4%の課税をされます。それで、それ以下の人はされないんだけど、今、機械化していくとどうしても課税対象になってしまいます、ちゃんと申告をしていけば、ここがちょっと微妙なんです。そう思うと、軽自動車税だったかな、田植え機は普通の3千円だったですか？

- 2千円。

- 大屋町長 2千円の課税の方が安く済むからというのがあるんです。本来は、減価償却資産として課税対象だけでも、2千円の方が安く済む。ただし、150万円かかったというところで、免税店があるので、それ以外の人は負担だけが増えるんだけど、そこはやっぱりこれからの機械化を考えれば、税負担と考えれば、2千円の方が得でしょうという意味合いです。そこは理解していただけるとありがたいです。ちょっと説明が足りなかったりしたところがあります。

学校給食については、今のところ無償化は考えていません。考えていないのは、やはり町として長くサービスを続けるためには、ある程度負担をしていただかないとこれからは難しいだろうと。その一定の負担というのは、やはり経済的に利用できる負担をという思いです。ただし、負担を皆さんにさせていただくんだけど、経済的な面に関しては別で、例えば就学援助費だとかそういうところでしっかり支援をしていく。負担はさせていただくんだけど、今の思いは、長く大学を出る、専門学校を出るまで町として応援するためには、一定の負担をしていただきながら、町としても応援しなきゃいけないときにはしっかりするために、考えなきゃいけないと思っています。

今日も課長会議でその話を伝えて、これからの日本一の子育て村はどうすべきかという中で、負担応援の仕方を。特に邑南町は子育て村としてがんばってきたので、多子世帯、3人とか4人の世帯が多いです。そういうところは別なので、そういうところをまず重点にしていこうという方法があるかと思います。そういう意味で、子育ての応援の仕方というのは、長くするために改めて考えさせてもらえればと思います。無償化したいんですけど、無料と実際にかかる経費に負担が今、すごく広がってきています。物価高騰もあって、各家もそうなんです。町ができないこと、長く続けられないことを提案するよりも、お互いに長く続けられることを提案させてもらえればと。課長会議等でも話をしますが、受益者負担ということで、負担すべきことをはっきりしていただきながら進めていければと思っています。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、最後をお願いいたします。
- では、最後に短い質問をします。アメリカのトランプさんは、自書の中で、犯罪が美しい言葉だと言われました。日本の総理大臣の石破さんは、ふるさとと言われました。大屋町長は、何が美しいことばでしょうか。
- 大屋町長 最後に気楽に聞いてください。何回目かの町議会議員の選挙のときに、美しい町づくりとかって言った覚えがあります。あまり美しいとか使うと選挙に強くないから、勝てないから微妙だねと言われながら。でも、所信表明ではやはり美しい景観と言っているとおり、先ほど邑南町はすばらしいんだと思う方が多いと言われたとおり、自然の美しさはすごく思います。自然が美しいですというのは、非常におかしいんですけど、そこに美的なものがあって。トランプさんが言う美しいとは違いますね。ただ邑南町が美しいと思います。いいですか？
- 大賀総務課長 ありがとうございます。たくさんの方からたくさんご意見ご質問をいただきました。この辺りで閉会としたいと思います。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。それでは、閉会にあたりまして白須副町長からご挨拶を申し上げます。

3. 副町長あいさつ

本日は、たくさんのご質問、ご意見をいただきました。ありがとうございました。時間も限らせておりましたので、質問をまだまだされたい方もいらっしゃると思いますが、今日の資料にもありますが、QRコードをスマートフォン等で読み込んでいただくと、町長に意見が届くようになります。また、お電話とかFAXでも、様々なご意見をいただいておりますので、またお帰りになりまして、何かありましたら、明日でも結構ですので、ご連絡いただければと思います。

町長の話の中にもありましたが、予算編成もほぼ完了して、明日は議会運営委員会ということで説明させていただきます。話の中に度々出てきた言葉ですが、財政再建というのを第一の方針として予算編成を進めて参りました。少なからず事業の見直し等、今までの効果等も検証した上で見直しをしておりますので、少なからず皆さんの生活や地域の活動、事業活動に影響が出てくる部分があるかもしれませんが、そういったところは、こういった理由でこう変わったんだということをしっかり説明させていただきたいと思います。また、その際には、様々なご意見をいただければと思います。今後の参考にさせていただきます。

それから、学校の在り方の問題、地域コミュニティのことについても質問をいただきました。これらについては直ちにというものでもございませんが、しっかりと皆さんと情報を共有しながら、皆さんと協働の立場に立って進めて参りたいと思いますので、その際にはご意見等をいただければと思います。

最後になりますが、本日、雪も降っております。足元も悪いことが予想されますので、ぜひ交通安全に気を付けていただいて、事故のないようにお帰りいただきたいと思います。本日は長時間にわたりまして、ご意見ご質問を頂戴しまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして、田所、高原地区の町政座談会を終了いたします。ありがとうございました。

●大賀総務課長 ありがとうございました。気を付けてお帰りください。